

# 横浜市内のマダニ類調査結果（令和6年度）

## 1 はじめに

マダニ類は日本に約50種が生息しており、すべての種が吸血し、主に哺乳類や鳥類、爬虫類などに寄生します。ダニ媒介感染症は、病原体を保有するダニが吸血の際に病原体を媒介することによって起こる感染症のことです。マダニ類による吸血は、幼虫、若虫、成虫の各ステージで1回ずつ、生涯で3回行われ（図1）、いずれも病原体を媒介するリスクがあります。

ヒトの主なダニ媒介感染症は、急性重症熱性血小板減少症候群（severe fever with thrombocytopenia syndrome; SFTS<sup>\*1</sup>）、ウイルス脳炎、日本紅斑熱、ライム病などが挙げられ、特に近年ではSFTSが問題となっています。

SFTSは、日本国内で2013年（平成25年）1月に死亡例が初めて報告されて以来、2025年（令和7年）7月31日現在まで、累計患者数1,185名（うち死亡例126例）が報告されています<sup>\*2</sup>。

SFTSの推定感染地は西日本が中心でしたが、2025年7月に神奈川県内を推定感染地とする初めてのSFTS患者が確認され、8月には北海道から推定感染地域の報告があり、全国的に感染拡大や患者発生が危惧されるようになってきました。さらにSFTSを発症したイヌやネコなどの愛玩動物等からの接触感染が報告され、2024年には国内初のヒト-ヒト感染症例も報告されています。

横浜市でもマダニ類の捕獲、種の鑑別を行い、市内に生息するマダニ相を把握するとともに、ウイルス検査が行える体制を整えておく必要があります。そのため、市内の緑地や公園において、マダニ類の生息状況調査を行い、捕獲したマダニ類のSFTSウイルス遺伝子検査を行っています。

本稿では、令和6年度に実施した調査結果について報告します。

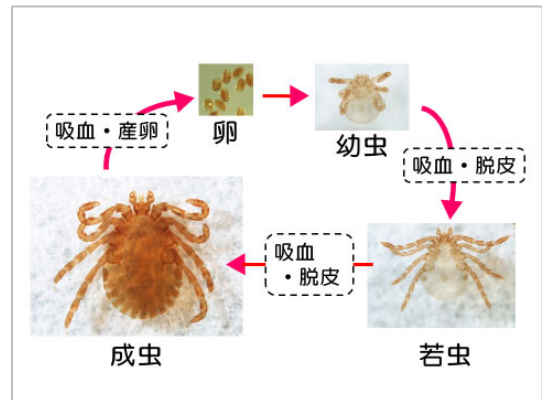


図1 マダニ類の生活史

## 2 調査方法

### (1) マダニ類の採集

マダニ類の採集は、旗ずり法（フラグging法）により行いました。旗ずり法とは、白色フランネル布（30×45 cm）を長さ約1メートルの棒の一端に付け、地表の植生や落ち葉の上をこすり、マダニ類を採集する方法です（写真1）。調査者一人当たり約30分間調査を行いました。

令和6年度は、栄区瀬上市民の森（以下円海山とする）及び金沢区富岡総合公園の2地点で調査を行いました。調査は、円海山は2024年3月～5月及び10～12月の各月1回計6回、富岡総合公園は2024年3月、5月及び10～12月の各月1回計5回行いました。

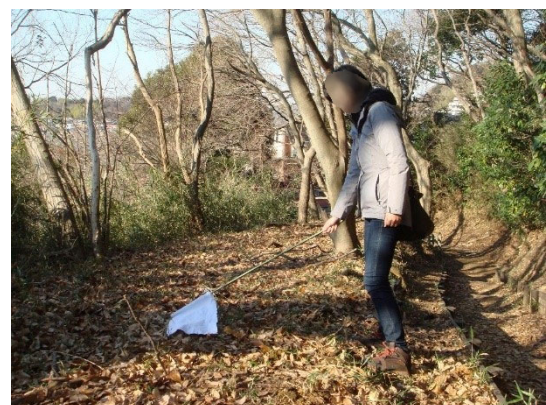


写真1 旗ずり法（フラグging法）

採集したマダニ類は、成虫については実体顕微鏡で、若虫及び幼虫については光学顕微鏡で同定しました。

## (2) SFTSウイルス遺伝子検査

採集したマダニ類の成虫及び若虫の一部について、同定、計数後にSFTSウイルス遺伝子検査<sup>\*3</sup>を行いました。

## 3 結果

### (1) マダニ類の採集

調査地点別のマダニ類の捕獲数を表1に示しました。

表1 調査地点別のマダニ類捕獲数

| 種類       | 円海山 |         | 富岡総合公園 |         | 合計  |         |
|----------|-----|---------|--------|---------|-----|---------|
| キチマダニ    | 419 | (96.1%) | 17     | (70.8%) | 436 | (94.8%) |
| フタトゲチマダニ | 5   | (1.1%)  | 0      | (0%)    | 5   | (1.1%)  |
| アカコッコマダニ | 2   | (0.5%)  | 7      | (29.2%) | 9   | (2.0%)  |
| ヤマトマダニ   | 10  | (2.3%)  | 0      | (0%)    | 10  | (2.2%)  |
| 合 計      | 436 |         | 24     |         | 460 |         |

令和6年度の調査では、採集されたマダニ類は4種460個体でした。調査地点別では、円海山が436個体、富岡総合公園が24個体でした。

円海山では、6回の調査でキチマダニ*Haemaphysalis flava*、フタトゲチマダニ*H. longicornis*、アカコッコマダニ*Ixodes turdus*、ヤマトマダニ*I. ovatus*の4種が採集されました。キチマダニが最も多く採集され、96.1%を占めました。

富岡総合公園では、5回の調査でキチマダニ、アカコッコマダニが採集されました。

円海山におけるキチマダニのステージ別捕獲状況について、6回の調査結果を、調査者一人当たりで換算し、図2に示しました。

成虫、若虫はいずれの回も捕獲されました。成虫は春期に捕獲数が多く、秋期には少ない傾向がみられました。若虫は秋期に捕獲数が多く、特に12月の捕獲数が多く、5月にはわずかになりました。幼虫は10月と11月に捕獲されました。

富岡総合公園における捕獲状況について、月別の捕獲数を表2に示しました。キチマダニは、いずれの回も捕獲され、アカコッコマダニは3月と10月に捕獲されましたが、いずれも個体数はわずかでした。キチマダニは成虫が5月に、若虫がいずれの回も捕獲されました。アカコッコマダニは3月に成虫2個体、若虫1個体と幼虫3個体、10月に幼虫が1個体捕獲されました。

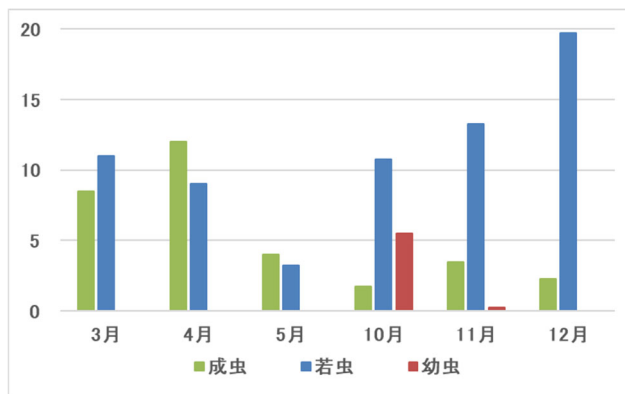


図2 円海山における調査者一人当たりのキチマダニのステージ別捕獲状況

表2 富岡総合公園のマダニ類の月別捕獲数

| 種類       | 3月 | 5月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|----------|----|----|-----|-----|-----|
| キチマダニ    | 2  | 2  | 3   | 4   | 6   |
| アカコッコマダニ | 6  | 0  | 1   | 0   | 0   |
| 合 計      | 8  | 2  | 4   | 4   | 6   |

## (2) SFTSウイルス遺伝子検査

捕獲されたマダニ類の成虫及び若虫の一部について、SFTSウイルス遺伝子検査<sup>\*3</sup>を行いました。

円海山については、キチマダニ、フタトゲチマダニ、アカコッコマダニ、ヤマトマダニ、合計30個体、富岡総合公園については、キチマダニ、アカコッコマダニ、合計14個体の検査を行いました。

表3 SFTSV検査を行ったマダニ類

| 調査地点   | キチマダニ |    | フタトゲチマダニ |    | アカコッコマダニ |    | ヤマトマダニ |    | 合計 |
|--------|-------|----|----------|----|----------|----|--------|----|----|
|        | 成虫    | 若虫 | 成虫       | 若虫 | 成虫       | 若虫 | 成虫     | 若虫 |    |
| 円海山    | 22    | 0  | 0        | 5  | 1        | 0  | 2      | 0  | 30 |
| 富岡総合公園 | 1     | 12 | 0        | 0  | 1        | 0  | 0      | 0  | 14 |
| 合 計    | 23    | 12 | 0        | 5  | 2        | 0  | 2      | 0  | 44 |

いずれの検体からもSFTSウイルス遺伝子は検出されませんでした。

今後も市内におけるマダニ類の調査を実施し、生息状況やウイルス保有の有無について監視を継続していきます。



写真2 キチマダニ成虫

<sup>\*1</sup>: SFTSは、2018年の国際ウイルス分類委員会 (ICVT) の新規分類で、フェニユイウイルス科 (Family Phenuiviridae) バンヤンウイルス属 (Genus Banyangvirus) に分類されるフアイヤンシャン・バンヤンウイルス (Huaiyangshan banyangvirus) に科名、属名、ウイルス名が変更された。ただし、本稿では、広く一般に用いられている病名およびウイルス名である、SFTS及びSFTSウイルスを用いた。

<sup>\*2</sup>: 遡り調査の結果判明した2005年(平成17年)からの患者4人は、感染症発生動向調査で届出が求められる以前に診断されたため含まれていない。

<sup>\*3</sup>: 国立感染症研究所獣医科学部SOP「マダニからのSFTSウイルス検出マニュアル(ver3.1)」による。

【 微生物検査研究課 医動物担当 】